

2023年12月

令和5年度歴史的建造物等保存修復・研究助成

助成申請者 各位

公益財団法人 新井財団

理事・選考委員長 後藤 治

審査評

本年度の歴史的建造物及び街並関係の事業については、修復が2件、調査研究2件が採択された。本年度は、助成開始から2年目ということで、修復、調査研究ともに、昨年度よりも多くの件数の応募をいただいた。本助成事業が関係者に知られてきていることを示すものとして素直に喜ぶたい。

修復については、本財団の助成が何に使われるのか明確であり、それがより高い効果を得られると思われるものが採択となった。採択された2件は地域の景観やまちづくりに良い影響を及ぼすことが期待できるもので、その成果がたのしみである。一方、採択されなかったもののなかに、地方公共団体からの応募があったが、維持管理に近い内容で、本財団の助成を地方公共団体の通常の活動では困難な事柄に使って効果を上げたいといった内容を欠いていた。次年度以降に、地方公共団体から応募する場合には、この点に特に留意いただきたい。

調査研究については、優れた提案が多く、採択されたものとされなかったものの差はわずかであったが、その成果がより影響や効果をもたらすようなものが採択となった。1件は歴史的建造物の活用を津波の災害対策等にも生かそうというもので、もう1件は多数の伝統的建造物群保存地区でその成果を活かせる内容であった。採択されなかったもののなかにも、成果の活用が期待できることをうたったものがあったが、やや具体性を欠く点や特殊な事

例を対象としているといった点で、採択されたものに及ばなかった。調査研究に関する本助成事業については、成果の発表にも使えるので、今後はさらに成果の活かし方やその工夫をした応募を期待したいところである。

以上